

当別町 平成22年度 財務4表の解説 (普通会計)

貸借対照表(バランスシート・BS)

貸借対照表は、当別町が保有するすべての資産がどのように構成されているかを示したもので、左側に「資産」を表示し、その資産がどのような負担により積み上げられたかを、右側に「負債(将来世代が負担する額)」と、資産から負債を引いた「純資産(現在までの世代が負担した額)」により表現しています。

資産の部(これまで積み上げてきた資産)		負債の部(将来世代が負担する金額)	
1 公共資産	(1) 事業用資産 庁舎、学校、保育所、総合体育館、地域会館など	90億89百万円	1 (1) 町債 135億12百万円
	(2) インフラ資産 道路、河川整備、公園など	362億82百万円	(2) 退職手当引当金 18億78百万円
2 投資等	(1) 投資及び出資金	8億48百万円	(3) その他 なし 損失補償等引当金など
	(2) 基金等	10億34百万円	2 (1) 翌年度償還予定町債 15億59百万円
3 流動資産	(1) 資金	2億70百万円	(2) その他 86百万円 賞与引当金など
	(2) 未収金など	2億13百万円	負債合計 170億35百万円
資産合計 477億36百万円		純資産の部(現在までの世代が負担した金額)	
		純資産合計 307億1百万円	
		負債及び純資産合計 477億36百万円	

純資産変動計算書(NW)

町の純資産(資産から負債を引いた残り)が年度中にどのように増減したかを明らかにするものです。総額としての純資産の変動に加え、それがどのような要因で増減したのかを表示します。
NWの「期末残高」=BSの「純資産合計」となります。

期首純資産残高	310億28百万円
I. 財源変動	9億25百万円
1 財源の使途 (純経常行政コスト) (長期金融資産形成など)	△68億64百万円 △19億3百万円
2 財源調達 (町税、地方交付税、国・道補助金)	96億92百万円
II. 資産形成充当財源の変動	6億6百万円
III. その他の純資産の変動	△18億58百万円
当期変動額	△3億27百万円
期末純資産残高	307億1百万円

行政コスト計算書(PL)

町の経常的な活動に必要なコストから使用料・手数料等の収入を引くことで、どれぐらい行政活動にコストがかかるのかを示しています。(純経常行政コスト) この費用は、純資産を減少させる要因の一つとしてNWの「財源の使途」に計上されます。

経常費用	72億27百万円
1 人にかかるコスト 人件費、退職手当引当金繰入など	15億90百万円
2 物にかかるコスト 物件費、減価償却費、維持補修費、経費など	20億7百万円
3 移転支的的なコスト 他会計への支出、社会保障給付、補助金等移転支出など	33億49百万円
4 その他のコスト 公債費(利払分)など	2億81百万円
経常収益	3億63百万円
うち使用料・手数料等	2億84百万円
純経常行政コスト (経常費用－経常収益)	68億64百万円

資金収支(キャッシュフロー)計算書(CF)

当別町における1年間の現金の流れを示したもので、簡単に言えば町のお財布の中身がどのように増減したかを表示したものです。
CFの「期末残高」=BSの「資金」となります。

期首資金残高	1億91百万円
1 経常的収支 税収、国・道補助金、人件費など	16億6百万円
2 資本収支(公共資産整備収支) 基金の積立・取崩、固定資産の購入・売却など	△3億73百万円
3 財務的収支 町債償還金、町債発行額など	△11億54百万円
当期資金収支	79百万円
期末資金残高	2億70百万円

★ 財務4表からわかる各種指標

- ① 町民1人当たりの資産・負債・純資産
資産=258万1千円 負債=92万1千円 純資産=166万円
- ② 純資産比率(道路や公園など、現在までの世代が負担した部分) 【純資産/総資産】= 64.3%
「社会資本形成の世代間比率」とも言われ、他市町村の平均値は、現役世代負担割合が70~75%で、当別町は、将来世代の負担が少し高くなっています。
- ③ 受益者負担率 【経常収益/経常費用】= 5.0%
経常費用(総行政コスト)のうち、サービスの受益者(町民等)が直接負担するコストの割合です。他市町村の平均値は2~8%となっています。
- ④ 町民1人あたりの純行政コスト及び人件費 37万1千円[うち人件費 8万6千円]
この指標は規模のメリットが働く(人口が多いと数字が下がる)ため、同規模市町村と比較する必要がありますが、当別町はほぼ平均的な数値となっています。
- ⑤ プライマリーバランス(基礎的財政収支) 【(歳入-町債借入)-(歳出-町債償還)+基金増減】= 12億33百万円
借金(町債)を除いた税収などの「収入(歳入)」と、過去の借金の返済額を除いた「支出(歳出)」の差で、これがゼロ(均衡)またはプラスということは、行政サービスを借金に頼らないで実施できており、現在の行政コストを将来の世代に先送りしていないことを示しています。

資金収支計算書(CF)から見る「平成22年度 当別町の財政運営」

町のお財布の中(現金)の動き	動きの内容	どういうこと?
1 経常収支 +16億円	人件費や物件費などの支出と、税収などの経常的収入の差引。	財布の中の現金(流動資産)が増えた。
2 資本収支 ▲3.7億円	基金の積立や固定資産の購入・売却に関するものの収支。22年度は、主に基金の積立(貯金)によりマイナス。	将来の支出に備え、貯金した。
3 投資・財務的収支 ▲11.5億円	地方債の「償還(返済)」>「新規借入」によりマイナス。	借金返済を優先し、将来世代の負担を軽減した。

財政運営計画等に沿った
堅調な財政運営

クロスアップ!